

事務事業名 エコキャンドル実行委員会補助事業

政策:03 にぎわい豊かな暮らしを創出するまちづくり

施策:03 観光の振興

部名:経済環境部

課名:商工観光課

基本事業:01 観光事業推進体制の整備

計画年度	平成21年度	～	年度	事業区分	継続	会計区分	普通会計	
1 対象（誰、何に対して事業を行うのか）				2 手段（事務事業の内容、やり方、手順）				
エコキャンドル実行委員会				市民による手作り自主的な参加型を目的とした、エコロジーを取り入れたエコな事業を行うことにより住みよい環境と魅力ある街づくりを図るための実行委員会への支援をする。毎年度計画書を提出してもらいその内容を審査し、補助金の交付を決定する。事業終了後、実績報告により補助金を精算する。				
3 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）								
実行委員会の実施事業を支援することで、市民のエコへの環境意識の向上や心のふれあいの場として、また、観光客の誘致が図れる。								
4 活動指標・成果指標・事業費の推移								
区分	指標名称			単位	20年度実績	21年度実績	22年度当初	25年度目標値
活動指標	参加者			人	-	100	100	-
活動指標								
成果指標	入込数			人	-	1,500	1,700	-
成果指標								
事業費				千円	0	500	500	
				うち一般財源	千円	0	500	500
5 目的妥当性								
- 法定受託事業である（根拠法令→） - 妥当である - 妥当性が低い				ボランティアがきわめて高い組織であり、参加が特定されていなくてもあるのため。				
6 上位の基本事業への貢献度								
- 貢献度大きい（理由→） - 貢献度ふつう（理由→） - 貢献度小さい（理由→） - 基礎的事務事業				環境を訴えながら、来遊者数の増加を見込める。				
7 対象や意図の妥当性、費用対効果の検討								
- 対象や意図を見直し、費用対効果を上げることができる - 対象や意図の見直しはできない - その他				なし				
8 有効性（成果状況）								
- あがっている - どちらかといえばあがっている - あがっていない				21年末に初めて開催されたものであり、今後の推移を見ていく必要がある。				
9 有効性（成果向上余地）								
- 成果向上余地・大 - 成果向上余地・中 - 成果向上余地・小・無し								
10 事業の再編成								
- 類似の事業があり、再編成できる - 類似の事業はあるが、再編成できない - 類似の事業はない				なし				
11 効率性（コスト削減の方法）								
- ある - ない				既に受益者負担を行っており、特段コスト減とならない。				